

近江八幡・東近江 地域みっちゃん生活情報誌® 滋賀県で334,175部(6誌)発行しています。

# オウティ

名證上場【証券コード:2139】

【OUTY】vol. 037 | 2014

3

総発行部数64,910部

無料各戸配布62,910部

無料設置2,000部

200部  
増刷



オウティ3周年記念  
オリジナルグルメ

新しいチャレンジ始めませんか?  
スクールガイド拡大版

ジモ ジョブ  
JIMO JOB  
オウティの求人情報

フリモ会員数 95,969名  
(2014.2.18現在)



# あいとうエコ・プラザ菜の花館

あいとうエコ・プラザ菜の花館（以下、菜の花館）は資源循環型地域モデル発祥の地。地元で収穫された菜種の搾油や、各家庭から回収された廃食油の燃料化などを行っています。今号は東近江市愛東地区（旧愛東町）から全国に広がった菜の花プロジェクトを取材。

資源循環型の地域づくりと未来のエネルギー問題について考えてみましょう。



リサイクルしたせっけんを普段から愛用しています

菜の花館で行われているせっけん作り体験。東近江市が進める地域循環型システムについて学ぼうと、多くの人が参加しています



①グリセリンや不純物を除去してBDFを作ります ②なたねを搾る搾油プラント ③菜の花館では天ぷら油で走るBDFカートも展示しています ④せっけん作り体験の前に、菜の花プロジェクトが行われた経緯を学びます ⑤最初は0.3haに植えた菜の花畠も、いまでは約10haにまで拡大 ⑥菜の花館では、なたね油粕やせっけん、菜種油など生産品の販売も行っています ⑦茶葉の生産体験など、農家と連携した事業も行っています ⑧菜の花館は開館当初から運営に携わっていた「NPO法人愛のまちエコ俱楽部」が、2011年から指定管理者として運営しています。写真はスタッフの方々（後列真ん中が館長の増田さん）

推移していましたが洗剤メーカーが「無リン合成洗剤」の販売を開始。すると、一時は7割を誇っていた家庭でのせっけん使用率が低下したのです。そこで、廃食油をせっけんではないものに活用する、新しいリサイクル方法を模索。辿り着いたのが、廃食用油を車の燃料にすることでした。滋賀県環境生活協同組合（現在は「NPO法人碧いびわ湖」）の藤井絢子理事長が、ドイツのバイオ燃料の取り組みにヒントを得たことがきっかけです。滋賀県工業技術センターの協力を得て平成4（1992）年から研究開発がスタート。翌年にはバイオ・ディーゼル・フューエル（以下、BDF）の試作にこぎ着きました。

軽油の代替え燃料であるBDFは、ディーゼルエンジンの車や船舶、農耕機に利用でき、石油燃料に依存するエネルギー問題の解決策として期待される新たなエネルギーになりました。愛東町に設置され

菜の花館で取り組む循環型社会実現への活動

菜の花館には、先進的な地域循環型社会システムの取り組みを見学しようと、年間約200団体、5000人が訪れます。廃油を使つ

ていましたが洗剤メーカーが「無リン合成洗剤」の販売を開始。すると、一時は7割を誇っていた家庭でのせっけん使用率が低下したのです。そこで、廃食油をせっけんではないものに活用する、新しいリサイクル方法を模索。辿り着いたのが、廃食用油を車の燃料にすることでした。滋賀県環境生活協同組合（現在は「NPO法人碧いびわ湖」）の藤井絢子理事長が、ドイツのバイオ燃料の取り組みにヒントを得たことがきっかけです。滋賀県工業技術センターの協力を得て平成4（1992）年から研究開発がスタート。翌年にはバイオ・ディーゼル・フューエル（以下、BDF）の試作にこぎ着きました。

軽油の代替え燃料であるBDFは、ディーゼルエンジンの車や船舶、農耕機に利用でき、石油燃料に依存するエネルギー問題の解決策として期待される新たなエネルギーになりました。愛東町に設置され

琵琶湖の赤潮を契機に住民の意識が変わる

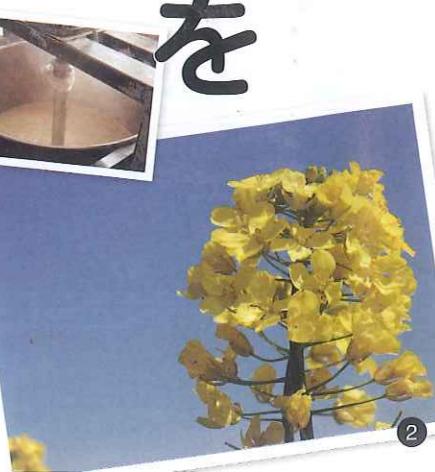
菜の花畠に囲まれた道の花畠駅「あいとうマーチ」になると周囲は一面黄色い世界に。地元の食材を使ったジエラードや焼き菓子を提供する「ラブティ」や、地元生産者による直売所があり、新鮮で安心・安全なものを求める、多くの人が訪れています。そんな道の駅の隣にあるのが、東近江市の資源循環を支える菜の花館。月に1度、地域の27カ所から集められた廃食油やステール缶、アルミ缶などがしっかりと分別された状態でストックヤードへと運び込まれています。

ここはまさに地域循環システムの拠点。全国47都道府県の花畠駅「あいとうマーチ」になると周囲は一面黄色い世界に。地元の食材を使ったジエラードや焼き菓子を提供する「ラブティ」や、地元生産者による直売所があり、新鮮で安心・安全なものを求める、多くの人が訪れています。そんな道の駅の隣にあるのが、東近江市の資源循環を支える菜の花館。月に1度、地域の27カ所から集められた廃食油やステール缶、アルミ缶などがしっかりと分別された状態でストックヤードへと運び込まれています。

琵琶湖の赤潮を契機に住民の意識が変わる

菜の花館・館長の増田隆さんに話を聞きました。昭和52（1977）年、琵琶湖に大規模な赤潮が発生しました。それまで使用していた合成洗剤に含まれるリンが赤潮の原因の一つと考えられ、湖を汚さないためにリンを含まないせっけんの使用運動が始まりました。これが県民や団体を巻き込んだ「せっけん運動」に広がり、「琵琶湖の富栄養化を防止する条例（びわこ条例）」が制定されました。さらに愛東町では昭和56

年に広がった資源循環型地域モデル「菜の花プロジェクト」発祥の地です。では、地域循環システムがなぜ愛東で生まれ、今日まで続いているのか。そして、地域住民のごみの分別回収に関する高い意識はどのようにして根付いていったのでしょうか。菜の花館・館長の増田隆さんに話を聞きました。昭和52（1977）年、琵琶湖に大規模な赤潮が発生しました。それまで使用していた合成洗剤に含まれるリンが赤潮の原因の一つと考えられ、湖を汚さないためにリンを含まないせっけんの使用運動が始まりました。これが県民や団体を巻き込んだ「せっけん運動」に広がり、「琵琶湖の富栄養化を防止する条例（びわこ条例）」が制定されました。さらに愛東町では昭和56



**Information**

**あいとうエコ・プラザ菜の花館**

住所：東近江市妹町70 ☎ 0749-46-8100

アクセス

公共交通／市内循環バス「愛東線」  
マーガレットステーション下車、徒歩2分

<http://www.ai-eco.com>